

藝大定期第370回

藝大フィルハーモニア定期演奏会 Geidai Philharmonia, Tokyo

～未完のシンフォニー～
Unvollendete Symphonien



東京藝術大学



尾高 尚忠 Hisatada OTAKA

《第一交響曲》作品35
Symphonie Nr.1 Op.35



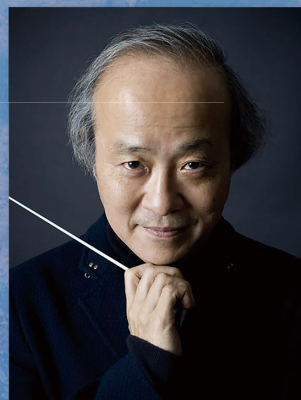
ブルックナー Anton BRUCKNER

《交響曲第9番》二短調
Symphonie Nr.9 d-Moll
(2000年コールス校訂版)
Kritische Neuausgabe von B.G.Cohrs (2000)

指揮
尾高 忠明

Conductor: Tadaaki OTAKA

管弦楽
藝大フィルハーモニア
Geidai Philharmonia, Tokyo



©Martin Richardson

2015年6月13日(土) 15:00開演 (14:30開場) 入場料 3,000円(全席自由)

東京藝術大学奏楽堂(大学構内)

※スケジュール・曲目・出演者等は都合により変更となる場合がありますので、ご了承ください。
※就学前のお子様の同伴・入場はできませんので、ご了承ください。

[チケット取り扱い] ◆東京芸術大学生生活協同組合 TEL: 03-3828-5669 (店頭販売のみ)
◆ヴォートル・チケットセンター TEL: 03-5355-1280 <http://ticket.votre.co.jp>
◆東京文化会館チケットサービス TEL: 03-5685-0650 <http://www.t-bunka.jp/ticket> ◆イープラス(e+) <http://eplus.jp>
◆チケットぴあ TEL: 0570-02-9999 <http://t.pia.jp> 《Pコード: 255-325》(一部携帯電話・PHS・IP電話はご利用いただくことができません)

[お問い合わせ] ◇東京藝術大学演奏芸術センター TEL: 050-5525-2300 ◇東京藝術大学ホームページ <http://www.geidai.ac.jp>

主催: 東京藝術大学音楽学部・東京藝術大学演奏芸術センター

未完のシンフォニー

それが、父、尾高尚忠（1911～51）の最後の日本交響楽団（現NHK交響楽団）との定期演奏会だった。1950年（昭和25年）12月14・15日、日比谷公会堂。父がウィーン留学時代から振りたくてしやうがなかった「ブルックナーの9番」。事務局はその頃、無名に近かったブルックナー（1824～96）の、それも題名付きの「ロマンティック」ではなく、9番を申し出る父にたびたび「No!」と返事をしていたが、最後に了承してくれた。演奏会当日、妻の節子（僕の母）は、舞台袖で聴いていた。ブルックナーが終わった時、聴衆の反応は鈍かった。でも、父は涙を浮かべながら帰ってきて、「ブルックナー小父さん、（天国に行けて）良かったね!」とつぶやいた。この頃、父は激しい頭痛に悩まされ続けていた。父の最初で最後の《第一交響曲》は、このような体調のなかで書かれている。ブルックナーは、《交響曲9番》のあと、4楽章を手がけながら完成することなく死を迎え、今はザンクト・フローリアンの修道院のオルガンの下に眠っている。父は1951年（昭和26年）1月の名古屋公演以降、病状が悪化し、2月16日に亡くなった。《第一交響曲》は2楽章までできあがっている。しかし、その2楽章の最後には「attacca（切れ目なく次へ）」の文字。父も3楽章を、いやもしかしたら4楽章まで構想があったのかも知れない。でも、ブルックナーの3楽章は「死のコラール」を持つが、父の2楽章は「湘南の海を懐かしむ歌」だ。僕は双方共に、作曲家の「白鳥の歌」だと思う。二人の作曲家が、天国で聴いてくれていると信じつつ。

尾高 忠明（指揮者・東京藝術大学音楽学部特別教授）

尾高 忠明 Tadaaki OTAKA

指揮 Conductor



©Martin Richardson

桐朋学園大学音楽学部で齊藤秀雄に師事。1970年民音指揮者コンクール第2位。71年、NHK交響楽団を指揮してデビュー。オーストリア政府から奨学金を得て72年からさらにウィーン国立音楽アカデミーでスワロフスキーに指揮法を学んだ。東京フィルハーモニー交響楽団常任指揮者（現桂冠指揮者）、札幌交響楽団正指揮者・常任指揮者（現音楽監督）、読売日本交響楽団常任指揮者（現名誉客演指揮者）、紀尾井シンフォニエッタ東京のミュージカル・アドバイザー・首席指揮者（現桂冠名誉指揮者）、メルボルン交響楽団首席客演指揮者などを歴任。87年にBBCウェールズ交響楽団（現BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団）首席指揮者に就任。88年ロンドンの夏の音楽祭「プロムス」にデビュー以来、イギリスを中心にヨーロッパにも活動の場を広げ、96年から同団桂冠指揮者を務める。2010年NHK交響楽団正指揮者。10～14年新国立劇場オペラ部門芸術監督。1991年度サントリー音楽賞、93年ウェールズ音楽演劇大学名誉博士号、97年英国エリザベス女王より大英勲章CBE、99年英国エルガー協会より日本人初の「エルガー・メダル」、2012年NHK交響楽団より有馬賞、14年北海道文化賞受賞。父の《第一交響曲》は、11年、尾高尚忠生誕100年没後60年を記念した仙台フィルハーモニー管弦楽団特別演奏会で採り上げている。東京藝術大学音楽学部特別教授・相愛大学音楽学部客員教授・京都市立芸術大学音楽学部客員教授。

藝大フィルハーモニア（東京藝術大学管弦楽研究部）

Geidai Philharmonia, Tokyo



藝大フィルハーモニアは東京藝術大学に所属するプロフェッショナル・オーケストラで、年2回の定期演奏会、声楽科との合唱定期、オペラ研究部との共演、新卒業生（各科最優秀者）の紹介演奏のほか、年末恒例の「メサイア演奏会」、「第九公演」などを行っている。教育面では、器楽科・声楽科学学生との協奏曲などの共演および作曲科学学生作品演奏（モーニング・コンサート）、指揮科学学生による演奏会・試験・演習など、学生の演奏経験の拡充に資している。前身である旧東京音楽学校管弦楽団は、わが国初の本格的なオーケストラで、ベートーヴェンの《交響曲第5番「運命」》、《交響曲第9番「合唱付き」》、チャイコフスキーの《交響曲第6番「悲愴」》、ブルックナーの《交響曲第9番》などを本邦初演し、日本の音楽界の礎石としての活動を果たしてきた。

東京藝術大学奏楽堂 [大学構内]

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

交通のご案内

■JR上野駅（公園口）・鶯谷駅（南口）、東京メトロ千代田線根津駅より徒歩10分

■京成線上野駅、東京メトロ日比谷線・銀座線上野駅より徒歩15分

■台東区循環バス「東西めぐりん」

② 上野駅・上野公園から（東京芸術大学経由）⇒ ⑤-1 東京芸術大学下車 [30分間隔]

※駐車場はございませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。

※就学前のお子様の同伴・入場はできませんので、ご了承ください。



デザイン：水本 紗恵子（演奏藝術センター教育研究助手）